

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより

西土佐中生徒が職場体験の事前学習と三本杭登山を体験

四万十市立西土佐中学校では、二年生が三年時に実施している職場体験学習の事前学習として「職業人に聞こう」と題し、西土佐地区のさまざまな職業について学習しています。それぞれの職場の方に来てもらって仕事の内容や大変さなどを学んだ上で職場体験をお願いする事業所を選び、進路選択に生かして行きたいということで、当センターにも要請がありました。

10月2日に、所長が中学校に出向き、生徒から事前に出された質問に答えるとともに、当センターの仕事の内容について説明をしました。



三本杭に登頂

10月6日には、秋晴れの中、生徒29名と教諭4名の総勢33名を案内して三本杭に登りました。生徒は職員から登山道沿いの樹木の名前や特徴、シカの食害防止用のネット設置の状況などの説明を受けながら約2時間かけて三本杭の頂上を目指しました。途中の八面山で休憩し、これから行く三本杭山頂はあそこだと説明すると、「えー、遠い、

疲れた。」という生徒もいました。三本杭の山頂に到着し、歩いてきた八面山は、あそこですと説明すると、遙かに遠くに見える八面山に驚いていました。

後日、生徒達より、「この間説明してもらっていたシカの食害についてのことを、実際の場所へ行って見るとその被害がどれだけひどいものだったのかわかりました。でも、ふれあいセンターの皆さんやボランティアで参加して下さった一般の方々の活躍が森林を再生させていることがわかりました。そして、



自然再生について説明の様子

三本杭登山体験で今まで知らなかったことをたくさん知りました。どうもありがとうございました。」などの感想文をいただきました。

今回の登山体験等を通して、森林等の自然の良さや大切さを感じてもらえたと考えています。

旧西ヶ方小学校で木工教室を開催

四万十市立西土佐小学校より、「校区内にふれあいセンターがあることを知り、木工体験を通じて、ふれあいセンターや西ヶ方地域に親しみをもちたい。」との話を受けて、10月23日、二年生16名を対象に、旧西ヶ方小学校の教室で、小枝を使ったストラップ及び鉛筆作りの木工教室を開催しました。

先に、木工クラフトの作り方を説明したのち、児童達が、各キットをボンドで接着し、色つけをして約60分程で作品が完成しました。

わずかな時間の木工教室でしたが、児童が木とふれあい、完成後には、みんなに「難しいと思ったら、簡単に上手できた。」「楽しかった。」「また作りたい。」との感想で、とても喜んでもらいました。

後日、学校より校内報「げん気」と感謝のお手紙を戴きました。

また行きたいな
日記
十月二十二日(水)
また行きたいな
今日、西ヶ方で、木工教室をしました。いい思い出です。江川さきさんと一緒に、キットを買いました。その間、女の子は、ラップラップペンでしんをとりました。それから、わたしもキットを買って、きねにのるのきねが来るよ、わたしは、
「やっあ。」
とおどろかされたので、うれしくなりました。きねの、いろいろなものがあって、きねのフイヤーもあってびっくりしました。西ヶ方には、回分できました。西ヶ方へ行くよ、ママが手をあつてくれて、わたしもあつきました。つぎに、西ヶ方小学校の森林ふれあいセンターに行つて、木工教室をしました。わたしは、さきよに、くまのストラップを作りました。さきよは、むずかしいと思つたら、かたんにできて、自分で、「じようでき」と言いました。そのつぎに、えんぴつのもつとを作りました。くまよりかんたんでした。先日も、「みんな上手」

もっと作りたいな
日記
十月二十二日(水)
もっと作りたいな
今日は、西ヶ方に行きました。江川さきさんと一緒に、新しい新かん機で西ヶ方に行きました。きねの中は、小さなりんごが二十こじようあつたと思つました。うごきだしたら、後ろをむいて外のけきを思つました。いつものけきよりすこいきれいでした。きねからおりて、森林ふれあいセンターに歩いて行きました。川原先生が、はじめのあいさつをしました。川原先生が、先生が、ストラップの作り方を教えくれました。ぼくとくまのストラップのストロップにしました。ほかの人は、くまもくまのストラップもくまもくまのストラップもくまのストラップがセツトでした。は、かんたんに作れました。まるく切つた大きな木の上、もうよと小さい木をのせてから、つぎに、また小さい木をのせたので、目をつけて、えんぴつも同じ作り方で作りました。えんぴつも同じ作り方で作りました。



完成した木工クラフト

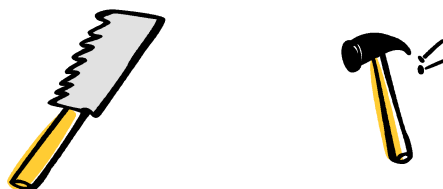


木工クラフト完成



木工クラフト製作中の様子

親子木工教室を開催



10月24日の土曜日、四万十市立中村南小学校で、四年生31名と父兄等を対象に、親子木工教室を開催しました。

最初に、「森林のはたらき」について、パワーポイントを使って講義をしました。森林には「水を蓄える」、「土砂崩れを防ぐ」、「快適な環境を作る」などの大切な働きがあることを学習しました。

次に怪我のないよう、模範演技を見せながら、道具の使用方法や製作時の注意点について説明した後、サクラ、ミズメ、ヒメシャラなどの木の枝を使って自由製作に挑戦しました。短い時間でしたが、ノコギリやクラフトナイフ、剪定バサミなどを使い、小枝等を加工して、先生や職員の手助けも借りながら、自分達で工夫をして、クマやカブトムシ等の置物、クマやくまモンのストラップなどの作品を完成させることができました。

授業参観日の機会に、児童と親御さんが一緒に、木を使って工作ができたことで、森林の大切さや木材利用についての理解を深めてもらえたと思います。



木工クラフト製作中の様子



木工クラフト製作中の様子

不入山フィールドワーク

10月28日、高知県立四万十高校の一年生自然環境コースの生徒6名と教諭3名を、「西の千本」と「四万十川源流点」に案内しました。

四万十川原流点のある不入山^{いらづやま}を訪れ、森林生態系の成り立ち及び本来の森の構成を学習するとともに、四万十川流域の自然のあり方について考えるきっかけを目的として学習しているものです。西の千本では、馬路村^{やなせ}魚梁瀬にある天然ヤナセスギ林を「千本山」と言い、それに対して、当地の人工林ス

ギ展示林は、植栽後108年経過し、平均樹高は35メートル、平均胸高直径は、60センチとなっており、ヤナセスギに対し、四国管内の西部において特に優れた人工林であることから「西の千本」と呼ばれていることを説明しました。その後、バーテックスを使って測樹を体験し、大木を囲んで手を繋ぎ、その大きさを実感しました。生徒達は、人工林でも100年以上の森には、大木が育っていることに驚いていました。

次に、郷土の森（四国森林管理局と高知県津野町の保存協定林）を通過し、源流点までの登山を体験しました。

生徒達は源流点で、四万十川の最初の流れを見て触れて、「源流点の水は冷たくて、とてもきれい。」「水たまりにはサンショウウオがいたのでびっくりした。」と話していました。

この森林学習を通じて、私達の生活を支える水を育む森への関心・理解が一層深まったことと考えます。



西の千本にて



四万十川源流点にて

二校で八面山登山体験

秋が深まった八面山へ10月29日に四万十市立西土佐小学校五年生22名と教諭3名、11月12日には愛媛県松野町立松野西小学校四年生26名と教諭2名を案内して八面山登山体験学習を行いました。準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木や二ホンジカの食害などを学習しながら、約50分で八面山山頂（1,165m）に到着しました。山頂では、遠くに見える三本杭（通称、「滑床山」1,266m）のすぐ右の山、横の森という所に、藩政時代、土佐藩と宇和島藩と吉田藩とがそれぞれの領地の境として杭を立てていたことから、それがいつのまにか「三本杭」という現在の山の呼び名になっていることを話すと、驚いていました。その後、八面山吊尾根のブナ天然林へ移動して、職員より森林の持つ様々な働きを説明した後、自然散策やネイチャーゲーム「カモフラージュなど」をして楽しみました。

この森林教室で、実際に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、森林への興味や関心が深まり、森林学習の一助になれたものと実感しています。



八面山山頂にて

10/29 西土佐小学校



木漏れびキャッチ



カモフラージュの様子

11/12 松野西小学校



八面山山頂にて



ブナ天然林にて遊ぶ



カモフラージュの様子

滑床山シカ防護ネットの設置

10月26日から11月11日の間で、裸地化が目立つ「滑床山熊のコル付近のギャップ」にシカ防護ネット柵(面積1.78h、ネット延長約615m)を設置しました。

この結果、これまでに設置したシカ防護ネット柵の合計は、(11箇所、面積5.69ha、ネット延長約3,484m)となりました。



シカ防護ネット柵設置中



シカ防護ネット柵設置後

地域の三つのイベントへ参加



幡多山もりフェス

11月1日、四万十市不破の四万十川左岸河川敷にて、「幡多山もりフェス2015」が開催され、大勢の方が清流四万十川を見ながら、地元B級グルメや各種のブースでのイベントを堪能しました。当センターも、四万十森林管理署と一緒に「かんたん木工教室」コーナーに出店参加しました。



かんたん木工教室の様子



丸太切り体験、さあ切るぞ～

しまんと黒尊むらまつり

秋も深まった11月14日、四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で、「しまんと黒尊むらまつり」が開催され、大勢の方が黒尊渓谷の紅葉と清流黒尊川の流れを見て楽しみ、流域の料理を堪能しました。恒例の「しまんと黒尊むらまつり」は、黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で、今年10回目の開催となりました。当センターからは、四万十森林管理署の応援もいただき、「みんなで作ろう」コーナーの担当で参加しました。あいにくの雨の一日でしたが、来訪者は地域の料理を食べて、紅葉を見て、黒尊を満喫されたようでした。



マイ箸づくりの様子



しまんと黒尊むらまつり開催状況

西土佐産業祭

11月22日、日曜日、四万十市西土佐で、第六回西土佐産業祭が開催されました。今回このイベントは、四万十市制十周年の記念行事の一環として、また、毎年11月に開催されている四万十うまいもの商店街と同時開催されて、会場の西土佐中学校には、西土佐地域の特産品や四万十川流域のうまいものが勢ぞろい、更に、児童生徒の書画展示や農林水産物即売会や漬物コンテストが行われ、手工芸品なども多数展示されて、終日多くの来場者で賑わいました。当センターも出店参加し、老若男女にマイ箸作りやクマのストラップ作りを楽しんでいただきました。



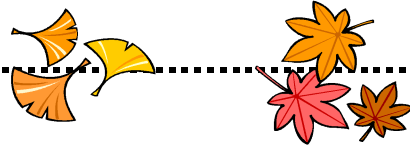


マイ箸づくりの様子



木工クラフト製作の様子

このような地域行事への参加は、地域との結びつきを深めるとともに、木の温もりを伝えられた晩秋の一日となりました。



二校で雨水の土壌浸透実験

愛媛県松野町立松野西小学校四年生26名を対象に10月14日、11月24日には、宿毛市立小筑紫小学校五年生14名を対象に、「雨水の土壌浸透実験」を実施しました。両校共に、毎年度「総合的な学習の時間」を利用して森林や樹木等の学習をしており、これまで3回の森林教室を実施し、四回目となる今回は治山模型を使って「森林のある山」と「森林のない山」を再現し、2班に分かれて、ジョウロで雨を降らせて実験し、森林の持ついろいろな働きについて実験しました。

樹木や枯葉を通して出てくる水は、薄い濁りでビーカーに溜まっていくのに対し、木も枯葉もない土がむき出しの模型からは、いつまでも濁った水が溢れるように流れる様子を目の当たりにし、家の模型が傾くたび、児童達からざわめきが起こり、土がはがれて底板が見えるまでになった「森林のない山」の模型と、変化の少ない「森林のある山」の模型と、それぞれ水を入れた量や水の出た量を計算して、その変化の違いを比較するなど、この実験の様子を、しっかりとメモをとって学習をしていました。

実験後には、パネル等を使って、森林には「水を蓄える」、「土砂崩れを防ぐ」、「快適な環境を作る」など大切な働きがあることをふりかえり学習しました。最後に児童から、今日の実験等を通じて感じたことの発表があり、「森林のない方の山側には、家を建てて住みたくないです。」「森林の無い山の方

が森林のある山より、水が多く出て驚いた。水の色も全然違った。」等の感想が述べられました。

両校共に、森林教室の回数を重ねて学習してきた結果、森林の持つ大切な働きについての理解が一層深まったと感じました。



11/24 小筑紫小雨水の土壌浸透実験



10/14 松野西小雨水の土壌浸透実験

三校で木エクラフト教室を開催

12月2日、愛媛県松野町立松野東小学校で、五年生5名と六年生6名、計11名を対象に、木工クラフト教室を開催しました。最初に、「絵で見る日本の森林」についてを使って、森林のはたらきについてお話をしました。「森林と私たちは空気につながっていること」、「森林が土をしっかりガードし、水を調整する緑のダムであること」、そして「森林は雨水をきれいにしてくれること」、「森林に入ることによって免疫力がアップすること」など、色々なはたらきがあることを学習しました。

最後に児童から、「今日は満足のいく作品が作れてとても楽しかったです。どうもありがとうございました。」とお礼の挨拶を戴きました。

また、宿毛市立山奈小学校で12月3日、一年生24名と二年生15名、計39名を対象に、小枝を使ったストラップ及び鉛筆作りの木工クラフト教室を開催しました。わずかな時間の木工クラフト教室でしたが、児童が木とふれあい、完成後には、みんなに「難しいと思ったら、簡単に上手できた。」「いろいろ作れて楽しかった。」「木の持つ温かみを感じられた。」との感想を言ってもらい、とても喜んでもらいました。そして校長先生から、「三学期には、森林のはたらきについての森林教室を是非ともお願いしたい。」との要請がありました。



12/3 山奈小木工クラフトの様子



12/2 松野東小木工クラフトの様子

炭焼き体験学習

12月8日、松野町立松野西小学校の四年生26名を対象に、今年度6回目の森林教室（炭焼き体験）を行いました。はじめに、炭の種類や利用法、炭の特性について説明し、実際の炭を見て、触ってどんなものか確認しました。続いて、炭焼き体験をしました。児童達は、職員から手順や注意点を聞き、ブリキ缶の中に、もみ殻とマツボックリやドングリ、折り鶴など自分達で作ったり、家から持ってきた物を詰めて、ドラム缶のたき火の中へ並べました。そして、アルミホイルに包んだイモが炭になるかについての実験もしました。たき火に入れて、約30分たった頃、ブリキ缶から出る煙の色が透明になる一方で、児童達はアルミホイルに包んだ中身が気になる様子でした。どちらもたき火の中から取り出し、ブリキ缶が冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けると、イモは皮の表面だけが黒く焼け、残念ながら炭にはならず、焼き芋となりました。冷えた缶を開けると、折り鶴やドングリ、マツボックリなどはちゃんと炭になっていました。

森林環境学習を重ねるにつれ、児童の森林の大切さや木材利用についての理解が深まり、自然への興味・関心が高まってきていると考えています。



炭になるのが待ちどろしいなあ



炭焼き体験後の集合写真

親子木工教室(椅子製作)

四万十市立下田小学校から、「木に釘を打って楽しいものを作りたい。」という要請があり、学校と相談した結果、椅子の製作をすることになり、12月11日に三年生12名と保護者を対象に親子木工教室を開催しました。

最初に、椅子の組み立て方法や製作時の注意点について説明した後、事前に準備した椅子のパーツであるヒノキの板や角材を用い、児童と親御さんが協力して金槌を使って釘を打って、椅子製作に挑戦しました。慣れない作業で悪戦苦闘をした方もいましたが、何とか全員が椅子を完成させることができました。

授業参観日に、児童と親御さんが一緒に、木材を使って工作ができたことで、これからも児童には、木に親しみ、利用してもらいたいと思います。

後日、児童達から「椅子作りはとても楽しかったです。」「作った椅子は大切に利用しています。来年もお願いしたいです。」等のお手紙を戴きました。



椅子はできているかな？



椅子製作の様子



林野庁 四国森林管理局

四万十川森林ふれあい推進センター

高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2

電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031

